巻頭言

就任にあたって

消防庁次長　緒方　俊則

このたび、消防庁次長に就任いたしました緒方俊則です。どうかよろしくお願いいたします。

就任の７月11日は九州北部豪雨災害発災後７日目に当たり、前職が内閣府大臣官房審議官（防災担当）であったため、災害対応の切れ目のない非常態勢が続く中での異動となりました。この災害では、消防団員１名が活動中に命を落とされ、また多くの方々がお亡くなりになりました。御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、この災害における人命救助活動等のため、福岡県と大分県の消防本部、消防団はもとより他府県からの緊急消防援助隊として、多くの消防職員、消防団員の皆さんが日夜、被災地の厳しい環境の下で活動いただき、地元の消防本部と消防団で活動が続けられていることに深く感謝を申し上げます。

近年、規模の大きい災害が度々発生するようになっていると感じている方も多いのではないかと思います。前職勤務期間中は、規模が大きい災害が発生すると被災地に入り、被災状況把握のための視察や災害対応を行ってまいりました。２年前の関東・東北豪雨災害被災地の茨城県常総市では、鬼怒川が決壊した現場を視察いたしました。昨年の台風第10号災害では、岩手県岩泉町に所在する小本川沿いの高齢者福祉施設「楽ん楽ん」、北海道十勝地域で河川流域一面農地を覆い尽くして土砂が広がる現場などの視察をさせていただきました。こういった活動を通じて自然の持つ力のもの凄さ、とりわけ短時間に集中的に降る雨が尋常ではないことを実感させられました。また、昨年４月の熊本地震の際は、発災直後から１ヶ月半の間、熊本県庁内の政府現地対策本部にて災害対応に当たりました。その間にも、益城町や西原村の断層沿いの家屋倒壊現場、阿蘇立野の大規模土砂崩落現場、被災した熊本城天守閣や石垣などを視察するとともに、各地の避難所で被災された方々の声を数多く聞かせていただきました。

周囲を海に囲まれ、４つのプレートがぶつかり合う位置にある我が国は、火山や活断層も多く、過去から繰り返し大規模な自然災害に見舞われてきました。こういった中では、災害が起きないようにする努力に加え、起きても被害ができるだけ小さくなるよう取り組むことが大切です。最近でも避難勧告等の発令基準の明確化や名称の見直しなどが行われていますが、起きた災害から教訓を汲み取り、次への備えを進め、災害対応力を高めていくことが重要だと思います。また、最近の北朝鮮の相次ぐミサイル発射を受け、ミサイル攻撃を想定した住民避難訓練を実施する動きが広がっています。このような取組を始め住民の安心・安全の確保のための取組について自治体と一体となって進めていかなければならないと思います。

私が初めて消防の仕事に就いたのは、30年近く前、岩手県消防防災課長の時でした。当時、消防団長さんたちから御案内を受け、日曜日の早朝から実施される各地の消防団の操法大会に出掛けました。また、県の消防長会や消防協会の会合にも度々出席させていただきました。遠洋漁業のため数カ月間、地域を不在にする男性が多い三陸沿岸の村では、地域を守るために婦人防火クラブが熱心に活動をされていました。こういった消防に携わる皆さんとの交流を通じて、自ら地域を守る崇高な消防の精神を実地で教えていただいたことは、大変貴重な経験となっています。消防庁次長の職は身に余る重責ですが、全力で取り組んでまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。